



1 明北小3年『火打ち石体験』 8月28日（金）



昨年度まで、安曇野市豊科郷土博物館で勤務されていた本校支援員の窪田先生を講師に、「火打ち石体験」を行いました。体験用具は博物館から借用しました。

1学期、子どもたちは“かんだち山”に行って遊びました。たくさんの木に囲まれながら、落ちている木切れも使って遊びました。火をおこす体験をしてみたいという子どもたちの思いは、その中で生まれたものです。教室の中では思い浮かばない発想が出てくることに、担任も驚いていました。

体験当日は、やや風が強く、火花は散るものの、火口（ほくち）に着火するのが難しかったのですが、最終的に多くの子が点火させることができました。火がついた瞬間、「ついたあ！」と声を上げ、喜びと笑顔でいっぱいの子どもたちでした。火口の火を元に薪に移した火で、子どもたちの希望であった“マシュマロ”を焼いてみんなで食べました。

<子どもの日記から>

学校で、5・6時間目に火おこしをやりました。せつ明を聞いてから、じゅんぴをして始めました。火花を火口に当てて、火をつけるのがむずかしかったです。鉄をたたかないように、くふうしました。みんなひっしでした。手がいたかったけど、つけたい思いでひっしにがんばりました。ようやく火がつけました。火おこしは、こんなにたいへんだって気づけてよかったです。

<3学年だよりから>

先週28日（金）5・6校時に、支援員の窪田先生に教えていただいて、火おこし体験をしました。まさに、どの子も火をつけようと、必死でした。火花は出るものの、麻縄をほぐした「火口（ほくち）」に着火させることは、本当に難しかったです。昔の人は、火をつけるのにも大変だったこと、マッチができた時は大発明だったことも感じられました。

子どもたちのがんばること、それはものすごいもので、びっくりしました。そして、最後まで何とか火をつけたいと、ねばり強くがんばる友だちを、声を出して応援する姿、火がついた時に自分のことのように歓声を上げて喜ぶ姿に、クラスの一体感が感じられ、火おこし体験をしてみて本当によかったと思いました。

2 明科中2学年『明科高校見学』

9月2日（水）

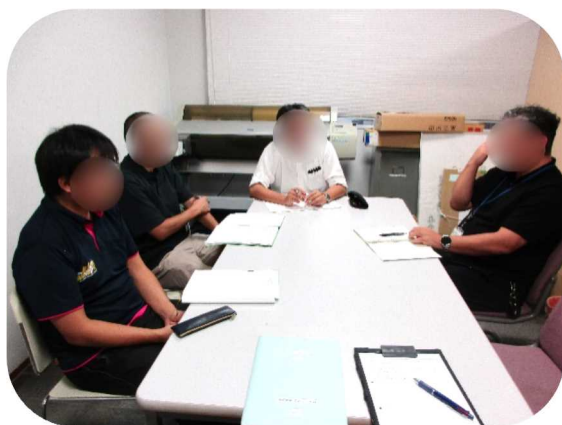


進路学習として、授業や学校生活の様子を参観することを通して、今後の学習や卒業後の進路選択につなげられるように、地域の明科高校にお願いし、毎年この時期に2年生全員で見学をさせていただいています。当日は、校長講話（中学校と高校について、高校進学にあたって、明科高校について等）の後、自由に学校内見学を行いました。

- ・校長講話から、将来の選択肢を広げるために、今から勉強や部活を頑張っていきたいと思いました。
- ・自分の学力の伸び方に対して悩んでいたけど、校長先生が見せてくれた表を見て、努力は絶対裏切らないから、がんばろう、めげずに努力しようと思った。
- ・中学校の内容を発展させたような内容の授業もありました。どれも難しそうだったけれど、中学校の勉強をしっかりと身につけて、できるようにしたいと思いました。
- ・中学で習ったことを活かしたり、レベルアップさせていたりしている教科があったので、覚えておきたい。
- ・自分が分かろうとするまで探究していて、すごいと思いました。
- ・集中して授業に取り組んでいました。中学校に比べて自由だなと感じる場所もありました。今のままだといけないと思うこともあったので、高校を参考にがんばりたいです。

3 明科中職員『明科公民館長と懇談』

8月6日（木）



明科公民館において、明科中校長・教務主任・研究主任の3名と、公民館長とで、懇談を行いました。学校と地域機関（今回は公民館）が、情報交換や協議を通し、手を携えて子どもたちの育成を図っていけるようにすることが目的です。

明科中では、やりたいこと追究「まなびの時間」に加え、総合的な学習の時間「プロジェクト型全校縦割り探究」が始まることもあり、子どもたちの必要に応じて外部講師（公民館等にも地域人材をお聞きしながら）を招いた活動も多くなりそうです。公民館では、中学生にも参加してもらえそうな新しい講座の新設も考えており、中学生の興味関心がどこにあるか探っているところです。若い世代にも活用してもらえる公民館を目指しています。中学校部活動の地域移行に向けて、子どもたちの放課後の居場所づくりも地域の重要な課題となっています。

学校と地域機関がお互いの思いを共有し合い、願いの実現に向けてそれぞれができそうなことを見いだしていくこのような懇談の場を、今後も大切にしていきたいと思います。